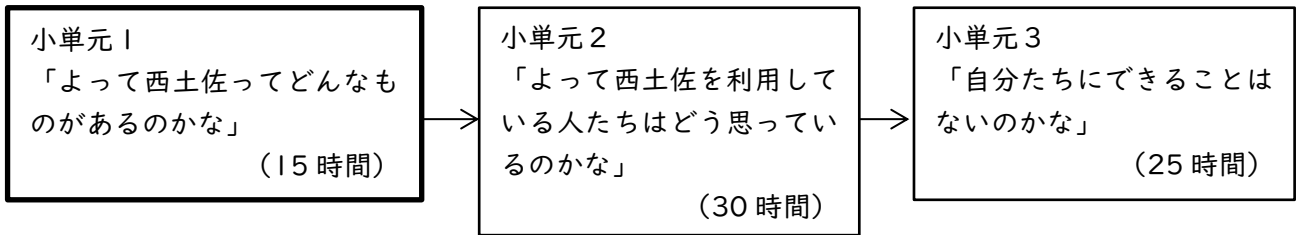


西土佐小学校 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和4年6月15日(水) 第5校時
 児童数 17名
 指導者 谷口 由紀

I 単元構想図

単元名 「西土佐応援プロジェクト」全70時間
 小単元1 「よって西土佐ってどんなものがあるのかな」(15時間)



◆学習の流れ

きっかけ

5年生のときに、西土佐の食のよさを観光客に知ってもらいたいという思いで、メニューを開発したり西土佐の食のよさを知ってもらうためのリーフレットを作成したりしてきた。山間屋の方の協力のもと、商品化して、実際に販売してきた。

第1次 5年生のときの総合を振り返り、「よって西土佐」について知っていることを話し合おう(4時間)

- 5年生のときの活動を振り返り、どんな力が身についたのか確認する。
- よって西土佐について、知っていることを話し合う。

- ◆5年生のときの振り返りや資料を手がかりに、想起させる。
- ◆よって西土佐について話し合うときに、タイミングよく資料や写真を提示し、共通認識させる。

第2次 旧山間屋や「よって西土佐」を調べよう。(5時間)

- インタビューの計画を立て、質問や役割を話し合う。
- 旧山間屋や「よって西土佐」について、インタビューをしたり、見学したりする。

- ◆目的に応じて、必要な情報を収集させる。
- ◆体験から新たに疑問を見つけさせる。

◆意識の流れ

- ・総合では、最後まで話し合えば、いいものができることがわかったよ。
- ・5年生では、西土佐の食のよさについて、リーフレットにまとめたね。
- ・山間屋の方とコラボして、自分たちが考えた商品を買ったね。
- ・西土佐の食のよさを観光客に広めるために活動してきたね。
- ・あの白い建物は、どうしてまだ残しているのかな。
- ・わたしたちの知らないことはもうないのかな。

- ・移転した理由は、道の駅の人たちと活動するためだったね。
- ・また、この建物を活用させたいって言っているね。
- ・中は変わらないね。
- ・藁の家という意味だったね。
- ・「よって西土佐」には、他の地域のものがあつたね。
- ・やっぱり西土佐のものが多いね。

第3次 様々な視点から「よって西土佐」を調べて、気付いたことを話し合おう。(3時間) 本時 1/3

○調べたことを整理し、そこから分かったことや気付いたことを出し合う。

◆付箋などを使って、可視化し、比較や分類しやすいようにする。

◆調べてきたことを分析するときどのように行えばいいのか考えさせる。

第4次 さまざまな視点から「よって西土佐」を調べて気付いたことをまとめよう。(3時間)

○分かったことや気づいたことをまとめる。

○学習してきたことを振り返り、自己の変容を確認する。

◆資料をタイミングよく活用し、次の疑問を持たせるようにする。

◆振り返りの視点を示し、児童自身も変化を分かりやすいようにする。

・山間屋さんは、地域に大切にされてきたということがわかったね。

・「よって西土佐」は、地元のものが多い種類がある。

・高知県内からのものもたくさん置いているね。

・何種類あるのかな。どれだけあるのかな。

・山間屋さんも「よって西土佐」も地域のをたくさん使っている。

・地域のことを大切に思っている。

・「よって西土佐」には、たくさん他の地域のもので置かれていたけど、活性化のためだった。

・「よって西土佐」は、どうしてたくさんの方が利用しているのかな。

・生産者さんが、400人も利用しているのはなぜかな。

単元でつきたい力

- ・西土佐のものを活かしながら、地域の活性化を目指している人々の思いに気づき、目的に合った方法で調べ、その人々の思いや願いを理解することができる。【知識及び技能】
- ・今までの自分たちの経験や調べて分かったことから、課題を設定し、解決に向けて複数の情報を観点に合わせて整理したり、比較したりしながら考える。【思考力、判断力、表現力等】
- ・課題解決に向け、自他の良さを活かしながら協働的に学び合い、探究活動に進んで取り組もうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

2 単元について

○単元観

本校のある四万十市西土佐地域は、四万十市の北部に位置している。地域の北西は、愛媛県、東は、高知市につながる高速道路が通っている四万十町窪川に隣接しており、人々が生活する上で、通り道となっている場所である。そして、最後の清流と言われる四万十川の中流域にあり、自然豊かで、ゆず、くり、いちご、四万十牛等の特産物がある。人々の生活の中心となる江川崎には、道の駅「よって西土佐」や販売店などがたくさん集まっており、「よって西土佐」の中には、地元の食材を使ってケーキ等を作って販売している山間屋や鮎市場がある。「よって西土佐」を立ち上げた

人々やそこで働く人々は、人口減少という課題を受け入れながら、西土佐がにぎわうことを考え、観光客がたくさん来るように切磋琢磨している。

本単元では、昨年度の学びとつながりを持たせ、「よって西土佐」を中心に、様々な道の駅と関わりながら、西土佐を活性化させるために努力している人々の地域に対する思いや願いを知ることができるとともに、中心地となる「よって西土佐」を利用している人々の思いや考えを知ることが出来る。この活動を通して、地域活性化のために、自分たちには何が出来るのかを考え、課題解決に向けて友達と協働的に学び合い、児童が進んで探究的な活動に取り組める単元であると捉えている。

○児童観

本学級の児童は、5年生のときには、「西土佐の食」について学習してきており、西土佐の食のよさを観光客に伝えたいという目的のもと、特産物を育てている農家の方にインタビューをしたり、山間屋の方の協力のもと自分たちが考えたメニューを商品化して販売したり、西土佐の食のよさをまとめたリーフレットを配ったりする活動に取り組んでいた。西土佐で生活を送る子どもたちは、他地域と西土佐を比べる機会が乏しく、西土佐の良さを実感できていない。児童は、全体的にどの授業においても消極的であるが、1年間の活動を通して、販売活動や山間屋の方にリーフレットの内容や自分たちが考えたメニューをプレゼンしたこと等から、人とかかわる力が身に付いたと感じている。しかしながら、関わり協力してくれた方々の地域を活性化させ、「疲弊しないようにしていきたい。」という思いや願いに気付くところまでにはいたっていないと考えられる。

○指導観

小単元1では、昨年度末に協力していただいた山間屋について調べていく。はじめに、6年生より県外から転校してきた友達に、5年生のときの総合を紹介しようという主旨のもと、5年生の活動を想起させ、何のために行ってきたのか、活動を通しての達成感等について思い起こさせる。次に、「よって西土佐」について、知っていることや思い浮かぶことを出させていく。その後、様々なところに着目させ、児童が知りたいことを調べに行き、集まった情報を整理する中で、これまで児童が持っていなかった視点に気付かせたい。

小単元2では、「よって西土佐」を利用している生産者や買い物に訪れる方について調べていく。そのときに、目的をしっかりと明確にし、調べに行くようにする。「よって西土佐」や周辺の道の駅の利用者数を比較させることで、「よって西土佐」には、何か魅力があるのではないかという疑問を持たせるようにしたい。情報を整理させていく中で、小単元1で調べたことがつながっていることに気付かせたい。

小単元3では、自分たちにできることは何かないのか、考えて実行していく。児童からは、youtubeなどのデジタルで配信したいという思いが出るだろうと考えられる。児童がやってみたくと思ったことを大切に、無理だろうと思われることも、形として実現できるようにしていき、児童の意欲や主体性を育みたい。また、国語科「町の幸福論」と関連させながら、児童が考えたアイデアをパワーポイントにまとめ、提案させていきたい。地域を盛り上げることを本気で考えている人たちの思いや願いを知ることや自分たちも一緒に何かしようと考え、地域のために何かできたという達成感を味わい、地域のよさを語れる児童を育てていきたい。そして、故郷に恩返しできる児童に育ててほしいと考える。

本時は、「よって西土佐」について様々な視点で調べたことを、整理させる場面である。グループごとに視点を決め、その視点に沿って分類したり、他のグループの情報から新たに知ったことを見つけ、共有したり、「よって西土佐」は地域を活性化させるために、いろいろな工夫をしていることに気付いたりすることができるようにしていきたい。また、児童が発言でき、考えが広がるように小グループで話し合いをさせることや発言が苦手な児童も考えが見えるようにノートに書かせる活動を取り入れ、児童の多くの考えを拾い、広げていきたい。

3 単元の目標

西土佐の活性化を目指している人々と触れ合うことや利用している人たちを調べることを通して、地域を盛り上げようと真剣に考えている人々の思いや願いを理解し、自分たちにもできることがないのか考えるとともに、自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
①西土佐を活性化しようとしている人々の思いや願いを理解している。 ②必要な情報に応じて、適切な調査活動を実施することができる。 ③西土佐地域を活性化させている人を調べたくなったのは、山間屋の方の思いや願いを理解し、探究的に活動してきたことの成果であることに気付く。	①今までの体験活動や学びから、課題を設定し、解決する方法や見通しを持っている。 ②自分たちの目的に合わせて、必要情報を収集している。 ③集めた情報を比較したり、関連付けたりしながら、情報の中にある特徴を見つけて整理したり、分析したりしている。 ④地域活性化しようとしている人々の思いや願いを目的や相手に応じて、まとめている。	①西土佐を活性化させている人々を調べる活動を、目的を持って主体的に取り組んでいる。 ②探究的な活動を、自他の良さを活かしながら協働的に学び合っている。 ③様々な人々にかかわることを通して、自分にできることを見つけようとしている。

5 指導と評価の計画（全 15 時間 本時 10/15）

次	時	ねらい（○）と学習活動（・）	評価の重点			評価方法
			知	思	態	
一 課題の設定	1 ～ 4	○5年生の時の総合を振り返り、旧山間屋について調べたいという思いを持つ。 ・5年生の活動を振り返る。 ・よって西土佐について、思いつくことを話し合う。		①	①	・発言 ・ノート ・行動 ・振り返り
二 情報の収集	5 ～ 9	○山間屋や「よって西土佐」について目的に合った方法で調べる。 ・旧山間屋や「よって西土佐」について、自分たちの知りたいことにあった質問を考え、インタビューをする。 ・自分たちの目的に合った方法を考え、調べる。	②		②	・発言 ・ノート ・行動 ・振り返り
三 整理・分析	10 ～ 12	○調べたことを項目ごとに分け、気付いたことを話し合う。 ・インタビューの内容を項目ごとに分ける。（本時） ・分けたことから、気付いたことや考えたことを話し合う。	① ①	③ ③		・発言 ・ノート ・行動 ・振り返り

四 まとめ・表現	13	○気付いたことや学習して分かったことをまとめる。 ・山間屋、「よって西土佐」について、調べてきたことをまとめる。 ・活動を振り返り、自己の成長や学習してきたことをまとめる。	③	④	③	・発言 ・ノート ・行動 ・振り返り
	15					

6 本時の指導

本時の目標	集めてきた情報を整理し、気付いたことを話し合うことができる。	
本時の評価規準	集めてきた情報の特徴を分類し、比較したり関連付けたりして、新たな気付きをもつことができる。【思】	
情報活用能力	「考えるための技法」を活用し、集めた情報を視点に沿って分類することができる。	
準備物	模造紙	
学習の展開		
学習活動	意識の流れ	評価規準【評価方法】
1. 今までの活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「よって西土佐」に調べに行ったね。 ・目的は「知らないことを調べて、次につなげる」だったね。 	
よって西土佐！新発見！！		
2. グループごとに分類する視点を見つけ、整理する。	<p>【西土佐の商品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者と品でつないでみよう。 <p>【他地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道と秋田は「交流」の категорияが付けられる。 <p>【鮎市場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あゆとそれ以外でまとめられそう。 <p>【山間屋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びっくりしたことや初めて知ったことで分けよう。 	
3. 集めた情報を整理し、共有する。 (班で分類する。)	<ul style="list-style-type: none"> ・あゆとそれ以外でまとめられそう。 	
4. 整理したことやグループで気付いたことを発表する。	<p>【西土佐の商品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西土佐の野菜がおいしいからいろいろな人に食べてもらいたいと思っているだろう。 ・一人の人がたくさん出品している。 <p>【他地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本各地と交流していることが分かった。 <p>【鮎市場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮎を青森に出荷していて、交流し 	

<p>5. 4つのグループの整理したものを見て、気付いたことをノートに書く。</p> <p>6. 振り返りを書く。</p>	<p>ていることが分かった。</p> <p>【山間屋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンブランを作るのが大変なことに気付いた。 ・鮎市場と他地域は交流している。 ・西土佐の商品と山間屋さんは、西土佐のものを大事にして、商品売っている。 ・西土佐のものでも、ジャガイモを出している生産者の方が多いと思った。 ・鮎市場も他の地域と交流していることを知らなかった。 ・日本の遠いところまで交流していることを始めて知りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めてきた情報の特徴を分類し、比較したり関連付けたりして、新たな気付きをもつことができる。 <p>【発言、ノート】</p>
---	--	---

7 板書計画

